

平成30年度第9回 感染症発生動向調査部会
議事要旨

1 日 時 平成30年12月19日(水) 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 入札室(岐阜市柳戸1-1)

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志(岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター 副センター長)
大西 秀典(岐阜大学医学部附属病院 新生児集中治療部 准教授)
澤田 明(岐阜大学医学部附属病院 眼科 講師)
石山 俊次(石山泌尿器科皮膚科)
オブザーバー: 川部 京子(岐阜市保健所地域保健課 感染症対策係長)
事務局 : 居波 由紀子(保健医療課 感染症対策係長)
上津 ひろな(保健医療課 主任技師)
田村 直彦(保健環境研究所 疫学情報部長)
酢谷 奈津(保健環境研究所 専門研究員)

4 議 題 (進行:馬場委員)

- (1) 2018年第44週～第48週、11月の感染症発生動向について
- (2) その他情報提供

5 議事要旨

【2018年第44週～第48週、11月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの報告と委員のコメントについては資料のとおり。
(委員からのその他のコメント等)
- ・流行性角結膜炎は、感染症発生動向調査では成人の患者報告が多いが、実際は小児から成人への感染例が多いと感じる。
- ・急性弛緩性麻痺は、早期の治療開始が重要であり、その観点から県民への情報提供・注意喚起をしてはどうか。

【その他情報提供】

○風しん・梅毒・百日咳・伝染性紅斑の発生状況等について

- ・事務局(保健環境研究所)から動向の注目される上記4疾患の発生状況等について資料のとおり情報提供。
(委員からのコメント等)
- ・県内の昨年からの梅毒の増加は、医療機関において届出疾患であることの認知度が高まったことも要因の一つと考えられる。また、来年1月から梅毒の届出事項が追加となるが、性感染症の場合、

患者への聞き取りは困難な面もある。

- ・全数届出となった百日咳は、岐阜県では全国と比較して成人患者が多い。医療機関による偏りも考えられるが、今後のデータ蓄積や解析が必要。

○感染症関連通知等

- ・事務局（保健医療課）から下記通知等について情報提供
 - ・乾燥 BCG ワクチン（経皮用・1人用）を使用する結核に係る定期の予防接種について
 - ・ノロウイルスの感染症・食中毒予防対策について
 - ・風しんの届出数の増加に伴う対策について
 - ・新規抗インフルエンザ薬バロキサビルマルボキシルに対する耐性株サーベイランスの実施について
 - ・風しん診断事例におけるウイルス遺伝子検査について
 - ・年末年始の海外渡航者に対する感染症予防啓発について
 - ・風しんに関する追加的対策 骨子

(委員からのコメント等)

・国による成人男性に対する風しんの抗体検査・定期予防接種の開始時期は来年度初めとなるのか。また、抗体検査は企業健診の場も活用するとのことであるが、住所地と異なる市町村で受ける場合はどうなるのか。

→（事務局）現在のところ、開始時期については準備が整った自治体から開始してほしいと国から説明を受けているが、市町村と健診機関等との契約の方法等については国が検討中とのことで、これから示される予定。